

経営方針と対処すべき課題（有価証券報告書より）

1 目指す姿と数値目標

経営方針

株主共同の利益のため、経営資源を合理的に活用し、堅実かつ確実な事業経営を実現。ベンチャーキャピタル事業の立て直しにより企業価値・株主価値向上を目指す。

2 中長期の経営戦略

1. 投資ファンド規模の拡大

1本あたりのファンド規模を10億円～30億円以上に。地方でのリスクマネー提供機能を維持しつつ運用体制を強化。

2. 投資領域の拡大

既存事業に加え新規投資領域を開拓。投資ファンド規模拡大により投資実行金額を増加させ、投資先企業サポート充実。

3. 地域企業M&A実行

投資事業組合と利益相反なき案件で、自己資金によるM&A実施。ファンド管理報酬・成功報酬に加えキャピタルゲイン獲得。

4. 収益の多角化

直接投資によるキャピタルゲイン獲得。新ビジネスモデル確立と投資家・投資先企業との関係構築強化。

3 対処すべき課題

① 新規ファンド設立推進

- ・マーケットへのサービス浸透強化
- ・新規投資家の発掘と開拓
- ・安定的収益確保体制の維持

② 新収益源の獲得

- ・投資家・投資先企業の成長支援 プロダクト開発
- ・事業会社との提携模索推進
- ・M&Aを中心とした自己投資施策実行

③ 営業・投資体制強化

- ・投資担当者・投資事務担当者の人員確保
- ・新規人員の早期戦力化教育体制充実
- ・複数ファンド効率的運営体制整備

面接で使えるポイント

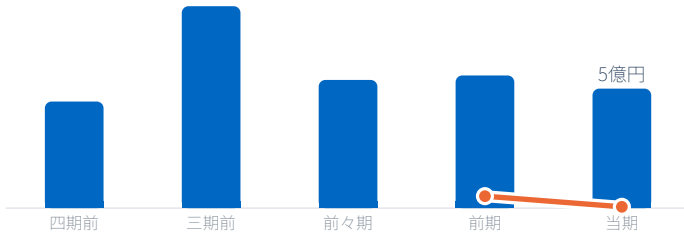
- ・ベンチャーキャピタル事業における集中と選択の新方針実行で、経営資源分散を解決する戦略転換に注目。
- ・10億円～30億円以上のファンド規模拡大と地域企業M&Aにより、複数の収益源確保を目指す成長モデル。
- ・投資担当者の人員確保と教育体制充実により、複数本ファンド効率運営と投資先企業成長支援を実現する組織強化。

フューチャーベンチャーキャピタル…

証券、商品先物取引業 | 非上場（有報提出会社） | 決算…

EDINETコード E03727

業績の推移（売上＝棒／営業利益＝線）



※営業利益は直近2期のみ開示（有報の様式変更による）

要するに

国内各地に事業拠点を置き、ベンチャーキャピタル事業として

主力事業・セグメント

・証券、商品先物取引業（セグメント未開示）

強み・特徴（公開データから）

・財務健康度72点と財務基盤が健全

※要約はAI生成のため誤りを含む可能性があります

暗記する数字3つ

連結売上高
5億円

営業利益率
▲9.6%

財務健康度
72点 / 100点

将来性 曇り / 就活偏差値 46.1（当サイト算出の参考指標）

平均年収
671万円

平均年齢
43.0歳

平均勤続
3.7年

※平均年収は提出会社単体・有価証券報告書ベース。順位は同33業種内の掲載企業での比較。

ここから下は自分で書く（面接で話すこと）

志望動機の核

上の数字・事業と接続して書く

自分の経験との接点

逆質問メモ

※1つはデータ起点で（例：勤続年数が長い要因は…）

直近ニュース一言

フューチャーベンチャーキャピタル株式会社 企業研究シート

出典: 企業スコープ (kigyو-scope.jp) / 金融庁EDINET 有価証券報告書

将来性・就活偏差値・財務健康度は当サイト算出の参考指標です。

投資・就職の判断は必ず一次情報をご確認ください。 作成日 2026-08-05

